

# GREETING

HIROSHIMA MIDORI SHINKIN BANK

## ごあいさつ



皆様には平素より広島みどり信用金庫に対しまして、格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

ここに、第70期(平成29年度)ディスクロージャー誌「REPORT 2018」を作成いたしました。経営方針や業務の内容、業績などを紹介しておりますので、ご高覧いただき、当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸いです。

平成29年度の日本経済は、アベノミクスの一環の推進に加え、海外経済の堅調な景気回復等を背景に輸出や生産の持ち直しが続き、全体としては緩やかな回復が続いております。

しかしながら、景気回復の恩恵は依然として大企業や都市圏に偏り、地域経済や中小企業においては、人手不足、事業承継等の諸問題も深刻化しており、景気の実感はできない状況にあります。

さらに、日本銀行の異次元の金融緩和の継続により金融機関の収益環境は一段と厳しさを増すものと思われます。

このように楽観を許さない経営環境ではありましたが、課題解決型金融に徹し地域活性化への貢献等経営

基盤の強化に努めてまいりました。その結果、平成29年度の業績は預金・貸出金とも増加し、収益面におきましては、コア業務純益は247百万円、経常利益は276百万円、当期純利益は155百万円を確保することが出来ました。また、金融機関の健全性・安全性を示す自己資本比率は19.99%前期比0.46ポイント上昇となり国内基準で求められる4%を大きく上回っております。

このような業績をあげることができましたのも偏に会員各位をはじめ地域の皆様方のご愛顧の賜ものことから感謝申し上げます。

さて、平成30年度は、当金庫の中期経営計画の中間年度となります。掲げているスローガン“お客様第一主義を真の目的とする”を貫きとおし役員一丸となり経営基盤の更なる強化を図り、健全経営に徹し、地域社会の繁栄のために尽力してまいりますので、今後も、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月

理事長 光永 義則